

(別紙)

1 グリーンスクール表彰校の取組概要

(1) 尼崎市立七松（ななつまつ）小学校

「レッツ チャレンジ 楽しい学び」（ビオトープを活用して）

1996 年からのビオトープの取組は、2006 年のリニューアルを経て今日に至っており、現在も環境委員会のメンバーが維持・管理に熱心に取り組んでいる。多くの生徒が、そこに生息するメダカや沼エビを観察するなどして休み時間を楽しみ過ごし、自然環境への関心や愛着を身につけている。

昨年度から始まったエコ活動を日記に綴っていく取組は、児童の環境問題への意欲・関心を大いに高め、昨年は「子ども環境サミット」に参加し外務大臣表彰を受けた。

今年度はイリオモテアサガオによる校舎の壁面緑化も行っている。

(2) 伊丹市立瑞穂（みずほ）小学校

「みんなのビオトープをつくろう！」

平成 19 年 3 月から全学年が参加し、ビオトープ作りが始まった。その後、池や森作り、水草の植え付けやメダカの放流、芝の種まきなどによりビオトープを作成・整備してきた。池にはいつの間にかオタマジャクシやトンボも見られるようになり、別の小学校で生育していた絶滅危惧種のデングソウを土ごと移植したところ発芽し繁殖した。今年 4 月にはカルガモのつがい飛来するなど豊かな生態系が形成されつつあり、子どもたちは実体験を通して学習活動に取り組んでいる。

また、全校集会での発表に向け、毎朝交代でビオトープの自然観察に取り組んでいる。

(3) 宝塚市立中山五月台（なかやまさつきだい）小学校

「里山復興プロジェクト」

里山というスケールの大きいフィールドを保護者や地域の協力を得て、巧みに教材化し、その上で食育や道徳と関連付けた取組を行っている。ビオトープづくり、自然観察、巣箱作り、里山の整地・整備・清掃、記念植樹、観察台の設置とその取組は幅広い。

その結果、ビオトープではモリアオガエルの産卵が見られるようになるとともに、巣箱には鳥が産卵し、雛が巣立つまでを観察することができた。また、記念植樹では子どもたちの希望でアゲハチョウが好む蜜柑の木も植えられた。

(4) 姫路市立安富北（やすとみきた）小学校

「ホタル飼育を通して、いのちのつながりを発見しよう」

ゲンジボタルの飼育は、中学生によって行われていたものを平成 11 年から同校が引き継ぐ形で始まった。捕獲した数百匹の成虫に交尾・産卵させ、その卵から得られた幼虫を飼育し、毎年 1000 匹以上放流している。川面を飛び交うホタルを自慢げに見つめる児童たちに命を育む誇りが育っている。

また、ホタル飼育を通して学習した地域の自然環境を、絵や文章にまとめ、カナダ・オンタリオ州の W・H・DAY 小学校と環境保全に関する壁画を共同制作するなど、学んだことを発信し、国際交流へとつながっている。

(5) 赤穂市立御崎（みさき）小学校

「スナメリのすむ御崎の海を目指して」

赤穂の海をきれいに、そして豊かな海に再生したいという思いから、アマモを近くの生育地から御崎の海へ移植・育成して生物多様性を高め、最終的にはスナメリが住む海を目指す取組を行っている。アマモを植えて3ヶ月後には周囲でハゼやヒトデなどが見られ、1年経つとアマモは50センチほどになり、ヒメイカが産卵場とするなど着実に多くの生き物の生息場所となりつつある。

また、潮干狩りやシュノーケル体験、里海シンポジウム in 赤穂への参加などを通して、身近な海の生き物に興味を持ち、命の大切さを考える子どもたちが育っている。

(6) 朝来市立山口（やまぐち）小学校

「大好き 朝来の大自然」

校区は、豊かな自然に恵まれた田園地帯で、その特性を生かして、学年ごとにテーマを定めた取組を行っている。1年生は草花遊びやヨモギ団子作りを通して四季の変化を体感。2年生は茶摘みや野菜作りを通しての地域や自然とのふれあい。3年生は、川・山の不思議発見。4年生は川、ごみ、省エネなどのテーマとしてグループで調査。5年生は円山川への稚鮎放流、神子畑川での水質検査や農業用水路での生物調査など。そして、6年生では環境学習の総まとめとして「地球環境新聞を作ろう」をテーマとして、課題を定めての調査・発表を行っている。

(7) 篠山市立雲部（くもべ）小学校

「とびこもう 緑と風と光の中へ」

児童が保護者や校区の方と積極的に里山に入り、五感を使って樹木、植物、生き物等を多く観察し、ササユリ、カキラン、モリアオガエル、カスミサンショウオといった希少生物の生息地を発見したり、お気に入りの場所を見いだしたりして課題追求学習に意欲的に取り組んでいる。

また、生き物マップの作成、巣箱やえさ台作りによる野鳥を呼ぶ取組、植樹、クリーン作戦、里山の木の実でクラフトなど、里山の自然の素晴らしさと大切さを学ぶ取組を行い、オープンスクールの際には校区の方々へ学習成果の発表を行っている。

(8) 洲本市立五色（ごしき）中学校

「豊かな自然を愛し、自ら積極的に環境保全に取り組む心豊かな生徒の育成」

五色浜はかつて5色の砂利に覆われた景勝地として知られ、旧町名の由来となっていたが、近年は砂利の違法採取やゴミの投棄によってその景観は損なわれていた。この五色浜を蘇らせようという声が高まり、生徒会が全校生に呼びかけ、洲本市の協力のもと清掃活動を行っており、そのかいあって美しい海岸が蘇ってきている。

また、地域の花作りグループと連携してミニチュアガーデン作りも行っており、校内に5m四方のものを5基作成し、四季折々の花を植え、生徒たちの心の安定にも寄与している。

(9) 県立視覚特別支援学校

「人に優しく、物に優しく、地球に優しい「オカピー工房」」

担当の教諭の名と「ハッピーになる」を組み合わせた「オカピー工房」を立ち上げ、中学部・高等部では古うちわを再利用したうちわや、点字本を再利用した紙粘土の作品・色紙・カード・版画、点字教科書の再利用によるしおり、剪定した校庭の樹木を利用した掲示物止め等を制作。小学部では廃油石けんの制作を行っている。

制作した物は水泳大会や音楽・演劇発表会で配布し、好評を得ている。また、交流のあるアメリカ合衆国のオクラホマ盲学校にうちわを贈ったところ、礼状が届いた。

(10) 県立氷上（ひかみ）特別支援学校

「地域の美化作業や廃材利用等の活動をととして、自然を愛し奉仕する精神を身につける」

地域の緑化活動を行うボランティア団体と協力し、花の栽培を行うなど、地域内にある春日公民館等の公共施設周辺の緑化や美化活動を昭和 53 年から 31 年間継続して行っている。地域の清掃活動にも積極的に取り組み、高校 3 年生は卒業記念として J R 黒井駅周辺の清掃活動を行っている。

また、高等部では間伐材を用いた花台や丸太イス等を制作、中等部では牛乳パックのリサイクルとして紙すきを実施。小学部の「遊びの指導」の授業では、高等部の生徒が育てた花を地域の公民館に移植している。

2 グリーンスクール奨励賞表彰校の取組概要

グリーンスクールの選考に漏れたものの、優秀な取組を進めており、今後の取組が期待できる学校をグリーンスクール奨励賞として表彰する。

(1) 三田市立松が丘（まつがおか）小学校

「里山を知ろう・よみがえらそう・里山で遊ぼう」

自然環境を考え守る取組を行っている地域の団体である「みどりの環境クラブ」の方から学校周辺の自然環境や土地の利用、人々の暮らしについて学び、学校の南側に広がる里山探検を行った。里山の季節変化の観察を通して、タカノツメという甘い匂いがする珍しい樹木の存在も知った。

また、下草刈りや笹刈りなど里山の手入れを自分たちで行い、見通しの良くなった里山で、アスレチックなど五感を使って里山を感じつつ遊び、体験を通じ学んだことや、調べた環境問題について発表を行っている。

(2) 西宮市立甲陵（こうりょう）中学校

「世界に届け、甲陵愛！ーリサイクルを通してフィリピンの人へ井戸を贈ろうー」

「フィリピンに井戸を贈る」という目標を掲げ、アルミ缶のリサイクル活動を行っている。井戸を 1 基建てるためには 30～40 万個のアルミ缶が必要だが、1 年に 1 基贈れるようにと考え、毎週水曜日に各クラスのユニセフ委員が生徒からアルミ缶の回収を行っており、毎回約 2500 個は集まっている。こうした 18 年間の活動で、12 基の井戸を贈ることができ、第 13 基目の井戸を送るために今もがんばっている。この取組を通して、生徒が環境問題や仲間との協力の大切さ、頑張る集団の意義について考えるきっかけとなっている。

(3) 兵庫県立御影（みかげ）高等学校

「六甲山系のキノコの標本から種の多様性と環境について考察する」

「兵庫きのこ研究会」や「兵庫県立人と自然の博物館」と協力し、六甲山修法ヶ原におけるキノコの観察、採取個体の標本作製、発表展示を行っている。

昨年度は「兵庫きのこ研究会」の方の案内でフィールドでの観察を行い、人と自然の博物館の指導のもと標本作製を行った。「六甲山のキノコ展～リアルな森の妖精たち」と題した一般公開展示では、国内でも確認事例の少ない種や過去に一度しか観察報告されていない種が含まれ、高い評価を得た。